夕&Eye

キャンパス通い

大学のシニア向けコースが充実

学ぶ情熱 再び

同世代の仲間と挑戦／楽しくて仕方ない

キャンパスライフを満喫――。仕事や子育てに一区切りをつけ、大学で学び直すシニアが増えてきた。充実した図書館や広いキャンパスなど大学ならではの知的な環境が人気の理由だ。二〇一一年にかけて、多くの団塊世代が定年を迎えるのに合わせ、大学側も講座を新設するなど、シニアの学びの環境が充実してきた。

ツタのからまるチャペルにスズカケの道。「キャンパスを歩くだけで情熱がわき出てくる」と語るのは、立教セカンドステージ大学（東京都豊島区）の受講生、渡辺純子さん（61）だ。渡辺さんは第一期生。四月、立教大学（同）が五十歳以上を対象に、セカンドステージの生き方を自ら描いてもらう狙いで開校した。

立教大学の笠原清志副総長（60）は「カルチャーセンターの大学版ではない」と説明する。知的好奇心を満たすだけでなく「学びを次の生き方につなげる」（笠原氏）のが同大学の理念。ゼミへの所属や専用ラウンジの提供など、受講生が縦横のネットワークの中でじっくりと〝自分探し〟できる環境を整えた。

ほぼ毎日大学へ

ある金曜の午後、フリーアナウンサー、松平定知さんによる「歴史と文化の探求」の講義が行われた。教室は前の列から受講生で埋まる。そこに看護師歴三十六年の職業人生に一区切りをつけた渡辺さんの姿もあった。「再雇用の誘いもあったが、新しいことに挑戦し、同世代の仲間と学ぶことで自立した老人を目指したい」と語った。

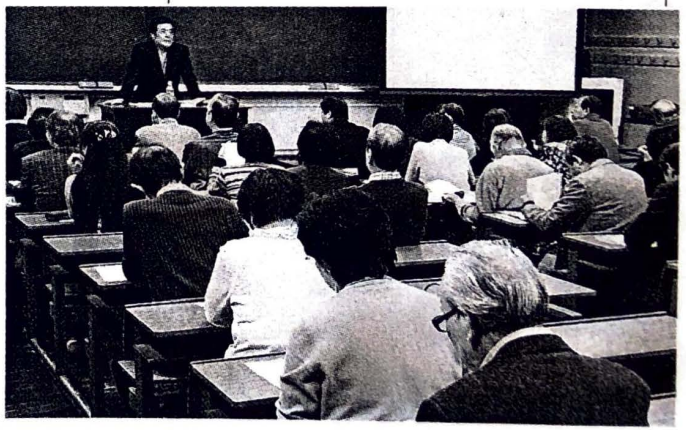
大学でシニアが学ぶにはいくつかのコースがある。立教の場合、入試はエッセーなどの書類審査や面接。講義は平日午後に開かれ、仕事と両立する五十歳代もいる。期間は一年。単位や学位は得られないが、履修証明書が交付される。図書館や食堂などが利用でき、ほぼ毎日通う受講生がほとんどだ。年三十三万円の受講料については「安い」との声が上がった。

人気は上々で定員七十人に百七十人が応募し、九十六人が入学した。横浜市の元会社員、継（つぐ）潔さん（64）は修了後、さらに「専攻科」への進学を希望している。原動力は「楽しくてしょうがない」という学びの喜び。芥川賞の全受賞作品を読破し、作品に登場する「動植物の考察」が修了報告書のテーマ。定年後の楽しみに収集していた資料が生きた。

五十歳以上を「これから世代」ととらえるリクルートの月刊情報誌「コレカラ」はシニアが大学で学ぶ道を五つ挙げる。①アラカルト的な公開講座②継続性のあるオープンカレッジ③聴講生・科目等履修生④大学⑤大学院――だ。

芳原世幸編集長は「コレカラ世代は学びと娯楽が密接に結びついている」と指摘する。「役に立つから」ではなく「楽しいから」学ぶのが特徴で、高齢化と共に「一億総学びの時代が来る」と予測する。大学がシニアに開かれると共に、より柔軟で学びやすいコースが増えるとみる。

同編集部が九月、首都圏の五十―六十四歳の男女に「今後一年で始めたい習い事やスクール」を聞いたところ、一



セカンドステージ大学の講義を受けるシニア（東京都豊島区の立教大学）

シニアが参加できる主なコース

名　称	所在地	特　徴	応募（参加）資格
立教セカンドステージ大学	東京都豊島区	全員がゼミに所属。評論家の立花隆氏の指導で自分史を書く授業が人気	高校卒業相当の学力。満50歳以上
東京経済大学シニア研究生	東京都国分寺市	大学院の教員の指導でビジネスなどの経験を整理	大学卒業相当の学力。満52歳以上
関西大学カレッジリンク型シニア住宅	住宅は兵庫県神戸市	大阪府吹田市のキャンパスや住宅内で講義や講演に参加。2009年開講予定	入居者が対象
早稲田大学エクステンションセンター	東京都新宿区	講座数約1500と大学の生涯学習機関として最大級。定年退職した人や主婦の参加が多い	特になし
東京農業大学成人学校	東京都世田谷区	園芸・造園や健康増進を1年間学ぶ	50歳以上
慶応義塾外国語学校	東京都港区	12カ国語14講座を開講。受講者は図書館を利用可（貸し出しは除く）	中学卒業以上